
あの赤い太陽に

小虎太郎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

あの赤い太陽に

【Nコード】

N1271D

【作者名】

小虎太郎

【あらすじ】

アウデラ・ルー。人口およそ百数十万人という中小都市であり、海に面したアウデラの街は貿易が主となり一つの街として機能している。そこは首都であるバルカンディの貿易の要、逆にとればアウデラは欠かせない存在であるのだ。海産物の多くから衣服や鉄鋼等そのほとんどが貿易という行為によって流れてきている。このアウデラの街は、貿易こそが意味を成しているのだ。そしてここ、アウデラこそ最も「人形」の多い街でもあった。

触発（前書き）

私、小虎太郎の作品を御覧になり有難う御座います。

ライトノベル思考ということで、変わった文章があり読みにくい所も多々あると思います。

それでも、頑張って書いてるので、どうか哀れんであげて下さい）

あ

触発

けたたましい喧噪が取り巻く市場。朝から夜まで光の耐えないここはもう一つの眠らぬ街の形でもあった。

現在はお天道様が丁度賑わう人ごみの真上にいるため、人はまだまだ減らない。

「・・・」

その人が河のように流れる様を、少年は見下ろしていた。

「・・・」

何を思うわけでもなく、何を話すわけでもなく、ただその流れを見つめている。

人が押し込まれたその空間に、点々と存在する人形。

そのどれもが首から小銃を掲げ、瞬きをせず少年と同じように流れを見ている。

一瞬、少年の眼光が闇を灯した。

視線は人形に向けられたかと思うと、すぐに流れに戻す。同時に眼が緩む。

「・・・そろそろ、か」

流れから眼を離し立ち上がると、大きく背伸びをして街を一望。

「何も変わらないか。この輪廻は、常に動いているのか」

くだらない。心の中で一瞥すると、時計台の窓へ飛び込んでいった。

秒針が一秒を刻み、分針が僅かに押される。その音が聞こえる程静かな工場。

あちこちに時計が掛かっている割に聞こえてくる音は2つか3つ、あとの数台は精密すぎて聞こえないのだ。

秒針の音に混ざって聞こえるのはボルトが回る音や床に金属が落ちる音。

早すぎる秒針に送られてボルト、今度は2回ボルトが落ちる間に秒針

が送れて1秒を刻む。

下手なリズムが部屋を踊る。

「できそうか？」

「あと少し」

少年は声に見向きもせず、目の前のソレと格闘していた。

「ん・・・」

カタンと最後のボルトをはずし終わると、カバーが外され中身が露呈される。

「こりゃひどい」

年季の入った声の主が、少年と並んで覗き込んだ。

「直りそうか？」

「ふん、バカいえ」

見飽きたのか、草臥れた老人は踵を返すと、

「直さなきゃ喰っていけん」

壁に掛かった用具を手にした。

「並々にな。豪勢とはいかず、パンとバターがあれば事もなしってね」

口を緩めて右腕にドライバーを握る。

「アラン。お前は次のモン持って来い」

「じじいに任せる義理はない」

アランと呼ばれた少年は構わず中の黒ずんだエンジンを持ち上げた。

「・・・ふん」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1271d/>

あの赤い太陽に

2010年12月30日05時34分発行